

流山市こどもの生活状況に関する実態調査 御意見シート

資料2 (令和5年10月6日現在)  
第4回子ども・子育て会議

\*御意見に関する対応案の共通解釈

- ・新規の設問に関して、必要に応じて(国や県、他自治体と比較できるもの、流山市として必要な設問等)、追加をする。
- ・選択肢の追加・削除は、原則変更しないこととする。(国や県、他自治体との比較し、本市の傾向を把握するため)

調査票種類	設問	内容	理由	対応案
小学生票 中学生票	表紙	「この調査票の回答は、あなたが自分自身の気持ちを正直に書いて答えるものです。おうちの方や学校の先生が見ることはありませんので、安心して書きましょう」のような柔らかい表現ではいかがでしょうか。自分たち(小5と中2の子どもたち)も回答していること自体を、虐待行為をする自分の保護者に知られた場合、その反応が怖いという委縮する気持ちにならないかが心配です。	注意事項なのでやむを得ないことですが、「～ください」、「～ください」の表現が続き、子どもにとっては圧迫感のある表現だと感じてしまいます。また、親や先生に見られるのでは?との不安感を少しでも払拭できればと考えます。子どもを対象にした調査を行っていること自体を秘密にすることは現実的にムリがあると思われませんが、回答することもには少しでも安心感に繋がる配慮が必要に思われます。	子どもたちが記載しやすいように、柔らかい表現に修正します。 *1ページ参照
小学生票 中学生票	問4	「あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか」という問いについて、学習の定着については問5でも質問をしています。この項目については、「学習に意欲的に取り組んでいるか」について聞いてはどうか。	学校では、目標に準拠した評価をしており、自分がどの階層に位置しているかはわからない。また、それを自覚させる必要性はないと考えられる。	客観的にわからないのはご指摘のとおりですが、設問の趣旨としては自分自身の考えを答えるものなので、現行のとおりとします。
小学生票 中学生票	問7	進学したい学校の選択肢が複雑すぎる(特に高校卒業後の選択肢)	5年制高専を含むのであれば、大学校(気象や防衛)、海外などの選択肢もありかも。	共通解釈のとおり
中学生票		選択肢中の「中学」の項目は削除してもよいのではないのでしょうか。	中学生に進学希望を尋ねているため。 ※内閣府報告書を見ると、修正が入った上でこの表現になったことが確認できますが、質問と選択肢の整合性が取れていないように見えます。(回答には影響はないと思われまます。)	高校に進学しない場合、中学校のみの選択肢を選ぶため、この項目は「中学まで」に修正します。 *4ページ参照
小学生票	問8	選択肢7の「働く」のふりがなが、「はた」までとなっています。	修正	ふりがなを修正します。 *4ページ参照
小学生票 中学生票		将来の進学先を検討する理由に、「学びたいことがあるから」という項目を追加してはどうか。	希望する学校や職業があることはまだ明確ではなくても、興味を持っていることはあるという児童生徒もいるため。	選択肢に追加します。 *4ページ参照
小学生票 中学生票		理由として、「行きたくないから」、「勉強が嫌だから」という選択肢を増やしてはどうでしょうか。	勉強が嫌いな子どもにとっては、最も率直な意見だと思います。	共通解釈のとおり
小学生票 中学生票	問9	「地域のスポーツクラブや文化クラブ」の具体例を入れた方が分かりやすくなるかと思えます。	民間の習い事と区別しづらいのではと思いましたが。親に聞かなければ分からない設問は今回のアンケート主旨から考えて避けた方がよいのではと思えます。	子どもたちが記載しやすいように、具体例を挙げます。 *5ページ参照
小学生票 中学生票		「1 参加している」の右側に、「→問10に進んでください」と記載されているが、内容からすると「2 参加していない」の右側に記載されるべきかと思えます(小学生票では正しい表記になっています)。	単なるケアレス・ミスだと考えます。	「問11に進んでください。」に修正します。 *5ページ参照
小学生票 中学生票	問13	『ここで「お世話」とは～』の文の強調を括弧書きや小文字にしてみてもどうか。	当てはまる子の場合、強調されていることで不安や心配が大きくなるのではと思えます。また、小学生には「お世話」と「お手伝い」の見極めが難しいのではと思いました。	他の問と同様に、*アスタリスクで表現します。 *8ページ参照
小学生票 中学生票		問の下部に「チャイルドライン千葉」(子ども劇場千葉県センターNPO法人)、よりそいホットライン(厚生労働省)などの記載の検討をしてはどうか。	親や先生、友達に相談しづらい非常にデリケートな質問であることから、周りに知られずに相談できる所を紹介するとよいのではと思えます。	問17と同様に、相談できる場所を追加します。 *9ページ参照
小学生票 中学生票		「お世話」は「家での仕事」と言い換えることはできないか。	対価としてお金はもらえないが、自分に課せられた家庭内の仕事という意味合いがあると思うため	国での定義を引用しているため、現行のままとします。
小学生票 中学生票	問14	相談ダイヤル・SNSの選択肢を増やしてはどうか?	単純に選択肢がないような気がするから	共通解釈のとおり
小学生票 中学生票	問16	不登校の原因にもなる「いじめ」に関する質問が問16の中の回答選択肢1(II)だけのように思われます。いじめの内容やいじめが始まった原因などに関する質問があっても良いと考えます。また可能であれば、加害者側にも「なぜいじめなのか」を問う問題があってもよいと思えます。	いじめに起因する不登校や自殺などが絶えない現状をみると、いじめに関する質問は必須と考えます。	いじめに特化した質問は本調査の趣旨と異なるため、追加しないこととします。
小学生票 中学生票	問17	① あてはまる個数を聞いていますが、該当するものすべての○を付けた方がよいと考えますが、あてはまる個数を尋ねる意図は何でしょうか。	① 虐待についての参考にするのであれば、あてはまる内容としてどれが多いのかに目を向けるべきであり、いくつ該当するかを問う狙いが分かりません。	・本調査は「逆境体験」の状況把握として、過去に実施したことはない調査になると考えており、こどもの生活状況に関する重要な設問であるため、この内容は現行のとおりとします。 ・○のついた数が把握できれば良いため、どの項目に該当するかは本調査においては必要ではないと解釈しています。
小学生票 中学生票		② 問の最後に、「つらい気持ちの場合は、～～に話してみてください」との表記がありますが、ここの部分を「カード」に記載して日常的に持ち歩けるようにしてあげたらどうでしょうか。そもそも、「生徒手帳」などに記載されていてもよいものだと考えます。	② 記載された部分も含めて、「回答」として提出してしまい、手元に残らないため。名刺大のカードにすれば、普段から身につけられるため。	
小学生票 中学生票		③ 流山市の場合は全校にスクールカウンセラーが配置(かけ持ちではなく)されているのでしょうか。	③ 子どもがいざスクールカウンセラーに相談しようと思ったときに、他校に行っていて不在ということがないかが心配です。	
小学生票 中学生票		e.「両親が別居または離婚をしたことがある」h.「一緒に住んでいる人(うつ病または自殺しようとした人)がいる」という項目は削除した方がよい。虐待について、実態を把握したいのであればそのことに焦点を絞って聞いた方がよい。また、家庭生活に関する悩みを把握したいのであれば、「家族に関して心配なこと、困っていること」など自由記述にしてはどうか。	傷ついた児童生徒が、このアンケートに回答することで、その体験をフラッシュバックさせる可能性がある。児童生徒の心情を考慮する必要がある。	
小学生票 中学生票		調査に入れた方がよい。	先行研究を調べたら、ヤングケアラーの調査として、ACE(逆境的小児期体験:本来は10項目)が使用されているのでこの問17は、今回の調査に必ず入れた方がよいと思えます。	
小学生票 中学生票	小学生票 中学生票	麻薬がわかりにくい。ACEの質問項目では「アルコール中毒や薬物中毒を患っている人と生活をしてきたことがある」となっている。	小学生に「麻薬」がわかりにくいので、説明を入れるか、工夫が必要。	子どもたちが記載しやすいように、説明を入れます。 *11ページ参照
小学生票 中学生票	小学生票 中学生票	子どもが保護者をどのようにとらえているかを示す選択肢なので、自宅のリビングなどでは非常に回答しにくいと思えます。その意味では、やはり学校で回答するのが安全だと思います。もしくは、周囲に人のいない状況下で回答するように1ページ目の説明に加えたり(2つ目の説明に付け足す、など)、配布時に学校の先生から伝達していただくのも有効だと思います。	親に遠慮して正直な回答ができなかったり、親が回答に介入してくる可能性があるため。	本調査は学校で配付し、家で記入し、学校で回収する予定です。
小学生票 中学生票	問18	こどもの過ごす場所の選択肢を増やす	地域に無料でスペースを開放している物流センターなども流山にはあるから	選択肢の例示を増やします。 *12ページ参照
小学生票 中学生票		こどもが過ごす場所の選択肢を増やしてはどうか。	a, b, c, dで十分網羅的だと思います	了解しました。
小学生票 中学生票	新設	子どもに対する経済状況を問う質問として、定期的にお小遣いをもらっているか否かを聞いてもよいのではと考えます。回答の選択肢としては、月(週)に○回、その場合いくらなのか、まったくもらっていない、等併せて、保護者にもお小遣いを渡しているか否かを聞いてもよいと思えます。	お小遣いをもらっていないから、あるいは足りないからという理由で、直ちに非行に走ることはないとは思いますが、こどもの生活状況や行動を知るには必要な事項だと考えます。	保護者のみに経済状況を聞く項目を設けており、子どもへの設問は設けないこととします。

小学生票 中学生票	新設	同じ時間に寝ているかどうかだけではなく、誰と寝ているのかも聞いてはいかがでしょうか。例えば、個室（自分の部屋）で寝ている、兄弟・姉妹と一緒に寝ている、家族全員で寝ている、父親以外は全員一緒に寝ている等  あるいは、問12とは切り離して、自分専用の部屋があるのかどうか、兄弟・姉妹と一緒に勉強部屋があるのか否かを問う問題にしてもよいと考えます。	父親や継父からの性的虐待は、同じ部屋で寝ている場合に多いとの傾向があると聞いています（具体的な統計がある訳ではありません）。	他の設問と類似のもの、本調査内容の趣旨を踏まえて、当該設問は追加しないこととします。
小学生票 中学生票	新設	学校に必要なもの、学習するうえで必要なものを買ってもらっているか否かの質問を加えてはどうでしょうか。	保護者票には、経済状況を問う質問（問20～問23）が複数あるのに対し、子どもに対しては貧困さを問う質問がないため、貧困ではなくとも、ネグレクトによって買い与えてない場合もあると思います。	保護者にも聞いているので、学用品などの必要なものを購入できているかについての質問を追加します。 *7ページ参照
小学生票 中学生票	新設	問11の関連質問として、食べているものの内容を問う設問を増やしてはどうか。  あなたは、給食をのぞいて、以下の食べ物をふだんどれくらい食べますか。 A.野菜 B.くだもの C.肉か魚 D.カップめん・インスタントめん E.コンビニのおにぎり・お弁当 F.お菓子	令和元年度の千葉県子どもの生活実態調査において、野菜を毎日食べる子どもの割合は、一般層に比べて困窮層の方が低く、大きな差が見られるという調査結果があったため。	千葉県でも項目を設けており、生活状況を把握するために必要だと考えられる設問であるため、追加します。 *5～6ページ参照
小学生票 中学生票		食事の頻度だけではなく、「誰と食事を取っていますか」という質問も併せて聞いてはいかがでしょうか。	食事の頻度だけではなく、誰と食事をするかという質問によって、家族関係や家庭状況の一端も垣間見られると思います。	
小学校票 中学校票		食事の会話で楽しい事は何かの質問を増やしてほしい。	食事の時間で、家庭の様子が把握できるため。	
小学生票 中学生票	新設	以下の質問を増やしてはどうか。  あなたは、おうちの大人の人と次のようなことをどのくらいしていますか。 A.一緒に朝食を食べる B.一緒に夕飯を食べる C.勉強をみてあげる D.一緒に遊んだり体を動かしたりする E.学校生活の話をする F.ニュースなどの社会のできごとについて話す G.一緒に料理をする H.一緒に外出する（散歩、買い物、外食など）	令和元年度千葉県子どもの生活実態調査（子ども用）問16.参照。上記調査にて、困窮層ではおうちの人に勉強をみてもらったり、ニュースなどの社会のできごとについて話す機会がほほないと答える割合が多いという調査結果があった。家庭での様子を把握できる良問だと考えるため。	千葉県でも項目を設けており、生活状況を把握するために必要だと考えられる設問であるため、追加します。 *7ページ参照
小学校票 中学校票		一日当たり、家族間での会話がどの程度（時間or頻度）交わされるのかの質問を入れてはどうでしょうか（保護者が単身赴任をしている、あるいは深夜にならないと帰宅しないなどの事情は個々にはあるとは思いますが）。	日常の家庭内での状況は、家族間の会話があるか無いかで大きく異なると思います。	
小学校票 中学校票	新設	最近の子どもはスマホ（SNS、動画等）やゲームに費やす時間がかなり長いものと考えますが、その現状を知るためにも、一日当たりの時間を問う問題を入れてみてはどうでしょうか。	子どもたちの生活状況を知るという目的があるのならば、避けては通れない気がします。	千葉県でも項目を設けており、生活状況を把握するために必要だと考えられる設問であるため、追加します。 *6ページ参照
小学校票 中学校票		家庭において子ども達が楽しい時間が何かの質問を増やしてほしい。	楽しい時間や家族団楽の時間がある事は、心が満たされていると思うため。	
保護者票	問2	今回、調査対象となっている小5と中2の2人の子どもを持つ保護者の場合、あてはまる学区はどちらか1人の分ですよいということでしょうか。	小学生票と中学生票の内容がほぼ同じであるため、回答が面倒との理由で保護者に協力してもらえない可能性もあるのではないのでしょうか。逆に、特定の保護者だけが複数回答した場合、統計上の数値に何らかの差しさわりがあるのではないかと心配です。	調査票は小学5年生の保護者、中学2年生の保護者にそれぞれ配付するため、調査票ごとに記載していただきます。
保護者票	問3 問4 問6	実母・実父ではなく、里親が養育している場合には、実母・実父のことを書けばよいのか、里親のことを書けばよいのか不明瞭だと考えます。問1の上部に記載された「～母親や父親に代わる保護者」の“保護者”に含まれるとの理解でよろしいでしょうか。	里親に関しての記述がないため。流山市において、里親に養育されている実例がなければ結構です。	里親は、保護者に含まれるという理解で問題ありません。
保護者票	問7 問20	離婚相手との養育費、世帯全体の年収など「回答したくない」という項目もあってよいのではないかと。	非常にデリケートな事柄であり、子どもにその回答を持たせることに抵抗がある保護者もいると考える。	共通解釈のとおり
保護者票	問10	1週当たりの就労日数ならびに1日当たりの就労時間	子どもの貧困について捉えるには、親が仕事をかけ持ちして長時間労働をしている場合があるため、項目として入れてはいかがでしょうか。	千葉県でも項目を設けており、生活状況を把握するために必要だと考えられる設問であるため、追加します。 *5ページ参照
保護者票	問14	「dお子さんから、勉強や成績のことで話をしてくれる」は、「お子さんが」または、「お子さんが自発的に」という意味をはっきりさせたほうがよい。	日本語の表現があいまいだと感じたため	コミュニケーションを問う設問であるため、この項目は現行のとおりとします。
保護者票		関わり方の選択肢をふやしてはどうか（1）	進路や勉強以外にも友達関係や将来のことなども話しているか気になったため	選択肢に追加します。 *6ページ参照
保護者票		関わり方の選択肢は増やしてはどうか（2）	子どもの宿題（自由研究や音読など）を手伝ったことがあるなどもあってもよいのでは	共通解釈のとおり
保護者票	問21	嗜好品についての説明（例示）があったほうがよい	保護者も多様なので（外国籍の場合等）、説明があったほうがよい	例示を記載します。 *10ページ参照
保護者票	問24	この1か月の気持ちを問うのであれば、ネガティブな感情だけではなく、ポジティブな感情を問う項目が必要なのではないかと。	項目の中に「神経過敏に感じた」「絶望的だと感じた」などネガティブな気持ちの項目しか設定されていないため。	本設問は御自身の心理的ストレス等を把握する趣旨であるため、現行のとおりとします。
保護者票	新設	これまでに、お子さんの学校教育に必要な教材や行事に係る集金、給食費等が出せないことが1度でもありましたか？	子どもが平等に教育を受ける権利に関わるため	他の設問と類似のものがあることを踏まえて、当該設問は追加しないこととします。
保護者票	新設	以下の質問を増やしてはどうか。  あなたは、お子さんと次のようなことをすることがあります。か。 A.一緒に朝食を食べる B.一緒に夕飯を食べる C.勉強をみてあげる D.一緒に遊んだり体を動かしたりする E.学校生活の話をする F.ニュースなどの社会のできごとについて話す G.一緒に料理をする H.一緒に外出する（散歩、買い物、外食など）	令和元年度千葉県子どもの生活実態調査（保護者用）問43.参照。上段の子ども向け調査票に対応して、保護者票にも同様の質問を追加するもの。	千葉県でも項目を設けており、生活状況を把握するために必要だと考えられる設問であるため、追加します。 *7ページ参照
保護者票		子どもに対する経済状況を問う質問として、定期的にお小遣いをもらっているか否かを聞いてもよいのではと考えます。回答の選択肢としては、月（週）に〇回、その場合いくらなのか、まったくもらえない、等  併せて、保護者にもお小遣いを渡しているか否かを聞いてもよいと思います。	お小遣いをもらっていないから、あるいは足りないからという理由で、直ちに非行に走ることはないとは思いますが、子どもの生活状況や行動を知るには必要な事項だと考えます。	千葉県でも項目を設けており、生活状況を把握するために必要だと考えられる設問であるため、追加します。 *7ページ参照

その他	—	設問に対する意見ではないのですが、今回保護者と小学生・中学生が別々にアンケートを提出する場合、個人が特定されない形で統計的に処理されるとの記載から、世帯状況による子どもの実態調査が紐づけられるのか疑問に思いました。単純に「流山市の家庭状況はこの割合、子どもはこの割合」と出すのなら親と子で別々の提出でもと思いますが、内閣府の統計を見ると「ひとり親の子の場合は何%」のように記載があったのでどのように統計に生かすのか気になりました。		回答者が特定される可能性を否定出来ないため、子どもと保護者の紐づけはしません。現在ある設問項目の中で、ひとり親家庭等の判断はできると考えています。
その他	—	今回の実態調査の“結果”についてですが、集約ができた時点で、各学校でのスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなども共有し、今後の指導や相談に活かしてはどうですか。	実態調査の結果が活かされるのは令和7年度からの「流山市子ども計画」であり、多少のタイムラグがあることから、役立つデータであれば早めに活用した方がよいと思います。	集約できた段階で、本調査の結果は公表し、教育委員会とも共有します。
その他	—	国から示されたこどもの対象は、小5と中2ですが、若者の生活状況を知りたいのであれば、高2くらいを対象にした調査を独自に実施してもよいのではないのでしょうか。	コストもかかると思われるので、対象者を無作為抽出するなり、任意の高校数校だけ実施するのであれば、実施しやすく、小5や中2との比較もでき、今後実施する若者からの意見聴取の補完的な役割も果たせるのではないかと考えます。	市独自で高校生に対して調査を実施することは困難なため、高校生は対象としないこととします。